



知っていますか？

若年性認知症

について

若年性認知症とは…

「認知症」というと高齢者の病気と思われがちですが、40代、50代でかかる場合もあり、65歳未満の方が発症した場合を「若年性認知症」といいます。

高齢者との違い

子育てが難しくなる

子どもが未成年の場合、子どもに与える心理的負担など子どもへの影響が大きい。

受診につながりにくい

今までと違うと気づきつつも、受診先や相談先がわからず、受診のタイミングが遅れてしまう。

就労や経済的な課題

働き盛りの世代で発症すると、離職や配置転換により収入が減って経済的に困窮する。

主たる介護者に負担が集中する

介護者が仕事、子育て、高齢の親と配偶者の介護など多くの負担をかかえることになる。

家族や職場の同僚が変化に気づくポイント

- 会議や約束の予定を忘れる
- 複雑な手続きが苦手になる
- 周囲への配慮ができなくなる
- 同時に複数のことをこなすのが苦手になる
- 料理などの家事に手間取るようになる
- 車の運転中、少しこすったり車庫入れが苦手になる

